

令和3年度 事業報告書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

特定非営利活動法人 リアル・リンク京都

1. 事業の成果

「リアル・リンク」は真に喜びに溢れた繋がりを生み出す地域貢献型の法人で、『環境・福祉・教育・政経の相乗』を合言葉に、ご利用者の喜びがご家族や職員の喜びとなり、その喜びが地域社会を活性化させ、地域社会・ご利用者・職員の好循環を生み出すことを目標に活動し、今年度で発足28年となった。

収益事業の中核をなす介護福祉部門は創業9年目に入り、通所介護（デイサービス（北区））、小規模多機能型居宅介護（北区・右京区）、認知症対応型共同生活介護（グループホーム（北区・右京区））の3事業所で、前年度後半より事業所ごとに明確な収支目標を掲げることや、職場の透明性・公平性を確保するため職員評価制度を導入し職場環境を整え職員の定着を図ることに取り組んだ。

コロナ禍の影響は多大であり小規模多機能型居宅介護事業と通所介護事業に関しては、ご利用の自粛傾向が強くなり、業績が大幅に落ち込んだ。しかしながら、下半期に入り、コロナ禍も落ち着き始め、少しずつではあるが改善傾向が見られてきた。

一方、人材確保のひとつの手段として進めていた、外国人技能実習生、特定技能実習生に関しては、新型コロナウイルスの影響により入国、入職に至らなかった。次年度夏頃の入国、入職を予定している。

他方、貸館サービス（紫明会館）に関しては、本年度より新たな管理体制に引き継いだため、報告事項はない。

非収益事業においては、例年通りの活動であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の発令中は活動を休止した。

以下に各事業からの詳細報告を記載する。

■ 収益事業部門

(1) 紫明会館デイサービス（通所介護事業）

本年度は前年度に引き続き、明確な収支目標を掲げ、新たな仕組みを継続して取り組む年度であったが、新型コロナウイルスの影響によりご利用の自粛や、利用登録者数の減少が続いていた状況でのスタートであった。50名の利用登録者数を65名に、15名の1日平均利用者数を18名に目標を立て、期首より各種加算の取得に向けての整備に取り組み、またコロナ禍の落ち着き始めた下半期からは営業活動にも注力してきた。しかし、それぞれ61名、17.2名という結果に終わっている。

当デイサービスの強みであった外出イベントがコロナ禍により、思うように実施できない中、引き続き、ご利用者にどうすれば楽しんでもらえるのかを考え、取り組み、また安心してご利用いただけるよう感染防止対策にも積極的に取り組んできた。

職員の確保に関しては、派遣職員からの直接雇用を進め、派遣社員をゼロにすることができ、人員体制としては安定に至った。

今後はさらに収支改善に向け、ご利用者のニーズに応えるべく、入浴設備の改修、浴槽の増設、日曜年末年始営業等も視野に検討を行ない、ご利用者確保増に向け取り組んでいく。

(2) 走和の郷（グループホーム・小規模多機能型居宅介護事業）

本年度も前年度に引き続き、明確な収支目標に基づき運営を行った。

グループホーム事業に関しては、コロナ禍ではあるが積極的に営業活動を行い、空室がでることもあったが、概ね満室で推移した。

小規模多機能型居宅介護事業に関しては、登録者数 1 桁からのスタートとなったが、こちらも特に下半期は営業活動に積極的に取り組み、期末には登録者数 2 倍以上増となった。しかし、常勤職員数の増加により、収支は不振のままであり、次年度への課題となる。

特に上半期において慢性的な人員不足を派遣職員の雇用で補わざるを得ない状況が続いていたこと、また人材紹介会社を利用し、人員の確保を行なったことが要因となり、収入は前年度対比で大幅に改善したが、支出がそれをも上回る結果となった。

その他前年度に引き続き、NPO 法人としての地域貢献活動への取り組みとして、コロナ禍ではあったが、地域交流スペースの活用を地域の方々へ発信し、「いけばな療法」「認知症カフェ」「子ども食堂」を開催できた。他の施設にはない広さを活かしつつ感染対策には十分に配慮しながら、引き続きご使用いただく事で各団体から状況を発信してもらい、さらに地域での信頼を得ていきたい。

(3) 柏野の郷（グループホーム・小規模多機能型居宅介護事業）

本年度は経験キャリアのある管理者候補とともに新たなスタートとなった。

グループホーム事業に関しては、ご入院、ご逝去により、空室がでたこともあったが、営業活動を積極的にを行い、期末には満床にできた。

同様に小規模多機能型居宅介護事業についても、営業活動を行い、また短期利用者を積極的に受け入れていることで、本利用へ繋がったり、新たなご利用者の紹介に繋がったため、期首より登録者数 1.5 倍増とできた。

地域行事への参加に関しても、コロナ禍ですべての行事が中止となったが、毎月の取り組みや施設行事を町内回覧板にて発信することで地域との交流を図った。

■ 非収益事業部門

(1) ふエコ（子育て支援・環境教育事業）

子育て支援・環境教育事業「ふエコ」では、幼児・児童とその保護者および関係者を対象に、京都府下一円およびその近隣地域の保育所、幼稚園、子育てサークル、地域のサークルなどにスタッフが訪問して活動を行った。遊びを通しての環境教育の導入は、地球環境保全への関心の喚起と普及に貢献するものとする。また、子どもへの啓発活動は、家庭や地域への波及効果も大きく、子どものみならず大人への啓発にもつながると考える。子どもがもっと自然を好きになるために本事業は子どもの心を育てることに貢献したと考える。

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の発令中は活動を中止とした。また、実施にあたっては、健康観察やマスクの着用、手指の消毒を徹底するとともに、密を避けるため参加人数を制限し、参加者同士での用具の共用を避けるなどの工夫をして活動を行った。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
各種企業、団体、個人に対する啓発活動を通し、環境保全を推進する事業	環境教育・子育て支援事業「ぷエコ」活動内容は別紙のとおり	R3/4/1 ～ R4/3/31	京都府下一円及びその近隣地域	3名	110名	
介護保険法に基づく通所介護事業、介護予防通所介護事業、認知症対応型共同生活介護事業、小規模多機能型居宅介護事業	①通所介護事業 介護予防通所介護事業	R3/4/1 ～ R4/3/31	北区 上京区 中京区 左京区	21名	623名	
	②認知症対応型共同生活介護事業 介護予防認知症対応型共同生活介護事業	R3/4/1 ～ R4/3/31	右京区	24名	287名	
	③小規模多機能型居宅介護事業 介護予防小規模多機能型居宅介護事業	R3/4/1 ～ R4/3/31	右京区	8名	100名	
	④認知症対応型共同生活介護事業 介護予防認知症対応型共同生活介護事業	R3/4/1 ～ R4/3/31	北区 上京区 右京区	18名	205名	
	⑤小規模多機能型居宅介護事業 介護予防小規模多機能型居宅介護事業	R3/4/1 ～ R4/3/31	北区 上京区	8名	111名	
その他の事業に係る貸館事業	なし					

(別紙)

子育て支援・環境教育事業「ふエコ」
令和3年度 活動報告

年月日	対象	場所	参加者数	内容
R03/05/20 中止	高槻あいわ保育園 「地球っこクラブ」 5歳児	野外活動 (東海自然 歩道)		ウォーキング 自然散策
R03/08/01	親子ふれあい体験事業 幼児・小学生 親子	向日市民 体育館	20名	牛乳パックが 大変身
R03/08/26	高槻あいわ保育園 「地球っこクラブ」 5歳児	保育園内 教室	35名	石ころアート
R03/11/18	高槻あいわ保育園 「地球っこクラブ」 5歳児・	野外活動 (東海自然 歩道)	35名	ウォーキング 自然散策
R03/12/12	親子ふれあい体験事業 幼児・小学生 親子	向日市民 体育館	20名	リース まつぼっくりツリ ー
R04/02/24 中止	高槻あいわ保育園 「地球っこクラブ」 5歳児	野外活動 (東海自然 歩道)		ウォーキング 自然散策
R04/03/17 中止	高槻あいわ保育園 「地球っこクラブ」 5歳児	野外活動 (東海自然 歩道)		ウォーキング 自然散策